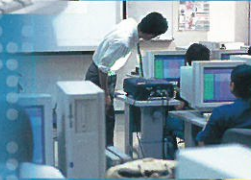


2004 POLYTECHNIC

<http://www.ehdo.go.jp/hiroshima/>



入校案内

NOKAIDAI
中国職業能力開発大学校
附属福山職業能力開発短期大学校

福山職業能力開発短期大学校が技術教育の訓練施設として機能していくためには、先ず短大校が地域社会の中の存在として、市民全体から認知されることが大切です。

そのためには、地域が現有する技術を十分認識するとともに、企業が常に新しい“成長分野”に転身するための戦略にもとづく基盤技術の教育訓練を我が短大校が受けもち、地域開発を図る必要があります。このことによって、地域社会と短大校が真に影響し合う関係ができ、産業界の活力を生む原動力となるのです。このように、活性化した地域に我が短大校が広く根ざすことによって、地域貢献のできる短大校を構築することが可能になります。コミュニティーカレッジをめざす目的がここにあります。

●福山産業教育振興会

「他人の繁栄を願わずして自らの繁栄はない。」という共存哲学を実践するために、短大校と産業界を結ぶ組織として、福山産業教育振興会があります。産業界の研鑽の場として、産業技術教育訓練の研究及び各種講習会等を通して教育訓練の助成を図るとともに、本校の学生を地元企業へ積極的に受け入れてもらうための情報を教育訓練内容に反映することによって就職を容易にすることができます。即ち、産業界と短大校がお互いの立場と目的を理解し合って、連絡と協調を図り、産業界のレベルアップと短大校の地域に対する開かれた文化的役割を果たし得る土壌づくりになくてはならない大切な組織であります。

●短大校と企業との共同研究

地域の産業界との技術交流を図りながら、技術上の課題や研究開発テーマに合わせた共同研究等を進め、短大校自らの研鑽の機会とし、併せて、地域の技術レベルの向上に努めます。

めざすのは「コミュニティーカレッジ」。



【設立の目的と特色】

20世紀は、科学技術の時代といわれ、人類はいろいろの技術を享受する時代であったと言われております。最近の産業界における技術の進展速度は、めざましいものがあります。

このような技術革新の時代には、産業界において活躍できる人材として、幅広い知識に基づく“思考力”と考えたことを具体化するねばり強い“実践力”とを兼ね備えた“実践技術者”(Technician Engineer)が要望されています。

当校では、ものづくりを担う実践技術者の育成を目的として、理論と実技とが融合した独特の教育訓練を行っています。

- 理論と技術・技能をそれぞれ単独で習得するのではなく、それらを有機的に結びつけた実学融合教育。
- 実験・実習を多く取り入れ、また一般教養も重視した独自のカリキュラム。
- 実践技術者を育成するための充実した実験・実習設備。
- 少人数教育による専門知識と技術・技能の徹底した指導。
- 産業界のニーズを教育訓練内容に反映し、地域の人材ニーズを反映したカリキュラムの展開で就職に有利。

【沿革】

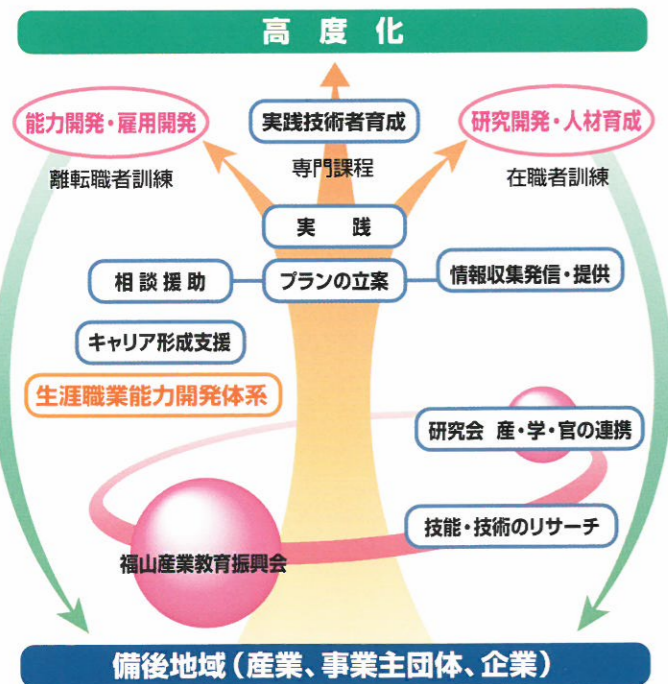
- 1967年 4月 福山市本庄町官有無番地(用地は福山市から無償貸与)に福山総合職業訓練所として電子機器科、機械科及び仕上科の三科で開設。
- 1989年 4月 前福山総合高等職業訓練校の施設を継承(改築、増設含む)し、福山職業訓練短期大学校として開校。電子機械科、電子科、電気科、室内造形科及び情報処理科の5科で訓練開始。
- 1992年 4月 再編整備計画に基づき、従来の訓練科を廃止し、新たに機械システム系(生産技術科、制御技術科)、情報システム系(情報処理科、情報技術科)、居住システム系(インテリア科)の3系5科で訓練を開始。
- 1999年10月 平成9年6月6日の閣議決定「特殊法人の整理合理化について」により雇用促進事業団は廃止。雇用・能力開発機構法により雇用・能力開発機構を設立。校名を雇用・能力開発機構福山職業能力開発短期大学校とする。
- 2001年 4月 中国職業能力開発短期大学校の設置・運営に伴い、校名を雇用・能力開発機構中国職業能力開発短期大学校附属福山職業能力開発短期大学校とする。

君たちのやる気。
そして、私達の願い。
本気でぶつけ合いましょう。
創造性豊かな
技術者となるために。



福山職業能力開発短期大学校
校長 今村 榮

社会経済のグローバル化、情報化の急速な発展により、世界の産業界は、国境なき時代へと大きく変化しています。我が国が21世紀においても技術大国として世界をリードしていくためには、その担い手となるフロントランナー型の人材、とくに現代の変化の中心となっている「ものづくり」を担う、高度な知識及び技術・技術、さらに創造性や柔軟性のある、企画・開発能力、応用能力、生産管理能力等、高度で多彩な職業能力を有する実践技術者(テクニシャン・エンジニア)の育成が緊急かつ最重要課題になっています。このような産業界の変化に対応するため、当校では、時代に即応した教育訓練を目指し、絶えずカリキュラムを見直し、また、最新の設備・機器を導入し、実践・実習の充実を図ってまいりました。今後、どのような技術革新にも対応できる教養と基礎学力を持ち、将来性豊かで即戦力を身につけた実践技術者を送り出すことが当校の目標であります。また、当校では、生涯職業能力開発にも積極的に取り組んでおり、修了生はもとより、多くの在職者の方々や離職者の方々にも広く門戸を開いております。私たちのキーワードは“ものづくり”です。あなたの思いをぶつけて見て下さい。このキャンパスには、それに応じて実現できる環境が整っており、必ず君たちのやる気を満足させることができると信じております。



POLYTECHNIC 2004

機械システム系

電気・電子システム系

情報システム系

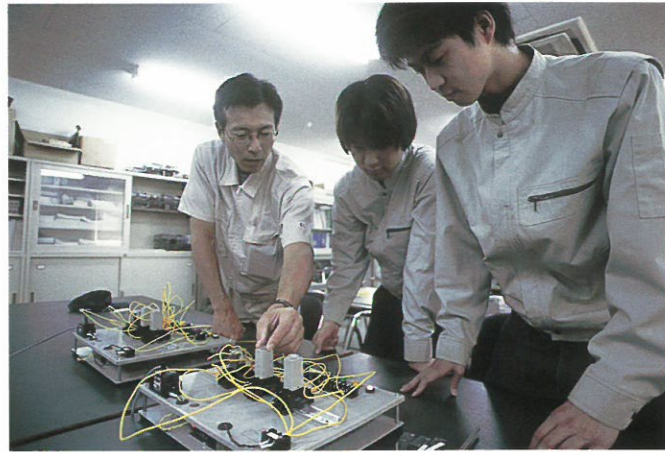
現在の機械分野では、技術の進展に伴い、高度な技術、技能を身に付けた人材が求められています。機械システム系では、加工技術をメインに学ぶ生産技術科、機械を最適にコン

トロールすることを学ぶ制御技術科を設置し、急速な社会の変化に対応できる人材を育成することを教育訓練目標としています。

機械システム系

電気・電子システム系

情報システム系

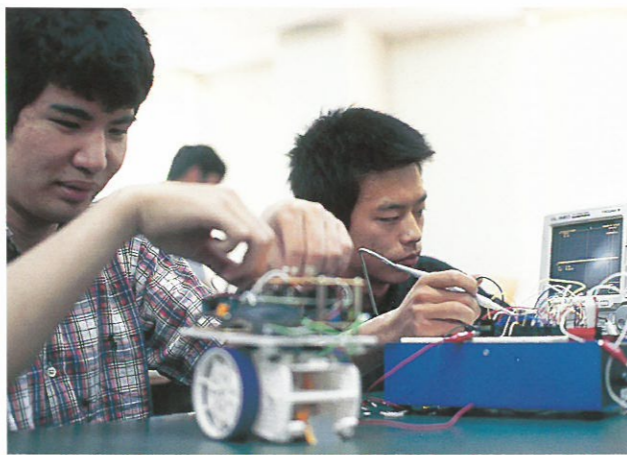


新しい技術を吸収し、新しい制御システムを考える。
マイクロエレクトロニクスとコンピュータの急速な進歩は、機械装置にますます高度な機能を与えることを可能にしました。コンピュータで機械を操作するコンピュータ制御技術は、これからの機械技術の中核として、機械装置等の高度知能化に大きな役割を果たすものと期待されています。
制御技術科は、電気・電子工学、機械工学の基礎を身に付け、多機能ロボットに象徴されるようなエレクトロニクスとメカニズムが高度に融合したシステムを構成できるような制御技術を十分に習得した実践技術者(テクニシャンエンジニア)を育成していきます。



最新鋭の設備で学ぶ、設計・加工技術
我が国の製造業は、これまで大きな飛躍をとげ、日本は世界に冠たる工業国となりました。しかし、メカトロニクス化等による技術の進歩、国際化、情報化の著しい進展、社会構造の変化の中で、わが国製造業の生産システム全体が大きな転換期にさしかかり、産業界では、創造的かつ高い目的意識をもった人材を求めています。
生産技術科では、このような産業界のニーズに応えるため、基礎的な技術・技能を理解し身に付けることで、高度・複合型技術・技能へと発展する人材育成を目指しています。

今や製造の主役となったロボットは、まさにメカトロニクス技術の賜物であり、以下の5つの要素からなっています。
① 頭脳 ② 手足 ③ 目耳 ④ 神経 ⑤ 体
メカトロニクスは、以下の要素をエレクトロニクス、コンピュータ、メカニズムで実現する技術であり、以下のようになります。
① 頭脳：コンピュータソフトウェア
② 手足：アクチュエータ(モータ等)
③ 目耳：センサ(光・音・温度等)
④ 神経：インターフェース
⑤ 体：メカニズム
制御技術科では、従来の機械の基礎技術に加えて、コンピュータからメカニズムに至る両面の基礎教育訓練を充実し、さらに実験・実習で理解を深め、確かな技術・技能を身に付けるよう工夫しています。
実験・実習は、カリキュラムの5割を占め、



生産技術科のカリキュラムは、機械設計・製図・加工・計測・制御・電気・電子・情報・生産システムを主とし、それぞれのカリキュラムに理論だけでなく実験・実習を多く取り入れながら、確かな技術・技能を身に付けることにも、「ものづくり」の楽しさを体験することを目的としています。
特に、実験・実習では、基礎を重視した作業感覚を身に付け、「体感」することによって、はじめてものづくりの実際と課題とをつなぎ合わせる問題解決志向型の教科内容としています。
このために、マシニングセンター・NC旋盤・放電加工機・三次元測定機など最先端機器を整備し、特に、CAD/CAMシステムは、1人の学生に対してコンピュータ1台の割合で



制御技術科
各種言語を用いたパソコン制御、リレーやPLCと呼ばれる制御用コンピュータを用いたシーケンス制御、さらにそれらを使って動かすFA制御システム等数多くの機器を完備しています。
コンピュータを自由に駆使し、新しい発想と確かな制御技術で「機械を思い通りに動かす。」ことのできる実践技術者の育成を目指しています。

区分	授業科目
専門実験・実習科目	メカトロニクス工学 センサ工学 電気・電子計測 デジタル回路 マイコン制御システム設計
専門学科目	メカトロニクス実習 FAシステム実習 インターフェース実習 マイコン制御実習 数値制御加工実習 制御プログラミング実習 プレゼンテーション技法

制御技術科

区分	授業科目
専門実験・実習科目	基礎工学実験 機械工学実験 電気・電子工学実験 情報処理実習 機械加工実習 機械加工実習Ⅰ シーケンス制御実習Ⅰ CAD実習Ⅰ CAD実習Ⅱ 総合製作基礎 総合製作実習
専門学科目	油圧・空圧制御 シーケンス制御 機械製図 機械設計製図 電子工学 電気回路

区分	授業科目
専門実験・実習科目	機械制御 電気工学概論 コンピュータ基礎 工業材料Ⅰ 工業材料Ⅱ 機械数学 工業力学 機械力学 材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 基礎製図 品質管理 安全衛生工学 メカニズム 機械加工 機械工作
専門学科目	

機械システム系共通

区分	授業科目
専門実験・実習科目	機械加工実習 機械加工実習Ⅱ 数値制御加工実習Ⅰ 数値制御加工実習Ⅱ 精密加工実習 測定実習 CAD/CAM実習 機械製図実習Ⅰ 機械製図実習Ⅱ プレゼンテーション実習
専門学科目	数値制御 精密測定 機械要素設計

生産技術科

整備、3次元CADによるモデリングからNC工作機による加工までを習得することができる環境となっています。
理論と技術・技能をそれぞれ単独で学ぶのではなく、それらを有機的に結びつけた実学融合を基本方針とした高度な教育訓練を取り入れています。
卒業生は、生産技術を中心とした設計・開発(加工)などの分野で、中堅技術者として確固たる地位を築いています。



「IT革命」というキーワードに象徴されるように、情報技術は、明日の産業・経済社会を牽引する基盤技術であります。情報技術関連のエンジニアには、コンピュータ単体の知識や技術に加えて、インターネットやイントラネットといった様々なネットワークを構築するためのシ

ステム的思考能力が求められています。情報技術科では、このような新しい時代の要請に対応可能な実践技術者を育成するため、プログラミング関連の基礎的実習から小規模な情報システムを構築させる実践的な実習を含めた、多彩なカリキュラムを構成しております。



**基礎力のある情報技術者を
目指して**

日進月歩で進化する情報関連技術に乗り遅れることなく、変化に柔軟に対応できるエンジニアに成長するためには、基礎技術と応用技術をバランスよく身に付けることが重要です。情報技術科では、①プログラミング技術、②ネットワーク構築技術、③データベース構築技術を三本柱として、次のような専門教育訓練を行っています。

【①プログラミング技術】基幹言語であるC言語のプログラミングの概念を徹底的に習得し、同時に、アルゴリズムやデータ構造の学科・演習を通じて、ソフトウェアの設計に際して必要とされる論理的思考能力の向上を図っています。このような基礎的な知識や技術をしっかりと習得した後、必要に応じて実践

的なプログラミング技術教育を実施しています。

【②ネットワーク構築技術】まず、代表的なネットワークオペレーティングシステム(NOS)の構造を理解します。さらにLANの構築技法を習得し、集大成の課題として、小規模な情報システムを構築する実習に取り組みます。

【③データベース構築技術】近年情報技術は多種多様化してきており、必要とされるノウハウは、無数に増えてきております。中でも、コンピュータシステム開発において、なくてはならないデータ処理、データベース技術に着目し、ORACLE、SQL Serverに代表されるデータベース構築技術に重点を置いています。

このような、情報工学分野の基礎技術となる技術分野から教科を厳選し、学科・演習・



実験・学習を有機的に結びつけた実践的教育訓練を行っています。

専門教科科目			区分
専攻実技	専攻学科	基礎実技	基礎学科
ソフトウェア制作実習Ⅱ システム分析・設計実習 データ構造・アルゴリズム実習 生産データベース実習Ⅱ オブジェクト指向プログラミング実習 オペレーティングシステム実習 工場内ネットワーク実習 デジタル信号処理実習 画像処理実習 生産画像工学実習 プロシエクト管理 総合制作実習	情報通信工学 工場内ネットワーク オペレーティングシステム 計測制御システム データ構造・アルゴリズム 生産データベースⅡ デジタル信号処理 画像処理工学 生産画像工学 数理計画法	数値計算実習 ソフトウェア制作実習Ⅰ 計算機命令実習 デジタル工学実習 インターネット活用実習 生産データベース実習Ⅰ 安全衛生工学	電気・電子工学概論 デジタル工学 確率・統計 線形代数 数値解析 応用数学 計算機工学 電子機器 ソフトウェア生産工学 生産データベースⅠ 情報システム概論 生産工学 安全衛生工学

情報技術科

授業科目



我国が世界をリードしてきた集積回路技術やロボット制御技術は、電気エネルギーと電子技術、情報技術あるいは制御技術の複合技術として実現されてきました。また近年、産業界では、21世紀を開くIT革命を支えるエレクトロニクス実践技術者が強く

求められています。電子技術科では、このような社会的ニーズに応えるため、充実した実験・実習設備を活用しながら、1年生では基礎的な科目、2年生では、半導体技術とマイコン技術に重点を置いて学習します。



**21世紀を開く情報技術
(IT)革命、それを支える
のが電子技術です。**

「IT(情報技術)革命」と言う言葉を耳にしたことがありますか?コンピュータの発達と普及が通信技術の進展とあいまって、社会のしくみを大きく変えようとしています。21世紀を迎えた現在、ITは、私たちの日常生活にも、変化をもたらすはじめてのことにあなとも気づいているでしょう。

21世紀を開く情報技術(IT)革命、それを支えるのが電子技術です。ITを利用して

きるよう、必要な機器や設備を創り出し、またそれらの性能を維持していく技術といつてもいいでしょう。

電子技術は、エレクトロニクスともよばれ、物理学、科学、数学を基礎に、20世紀に大きく進歩してきました。現在でも、多くの国は電子技術を国家の最重要技術と位置づけ、技術をさらに進めるべく、活発な研究開発活動が行われています。本校は、福山市の周辺でも、伝統工芸である備後餅の技術を、時代の変化とともに半導体技術や機械技術に発展させ、それぞれ世界に誇る独自の製品を製造するようになったお手伝いをしてきております。

電子技術科では、世界の趨勢と地元の特性を考え、電子技術の中でも重要な半導体



技術とマイコン技術に重点を置いています。1年生では、電気回路、電子回路、電磁気学等の基礎的な科目を、2年生では半導体の技術、マイコン技術等、学科と実験・実習とを密接に関連させたカリキュラム内容としています。

電子技術科

授業科目

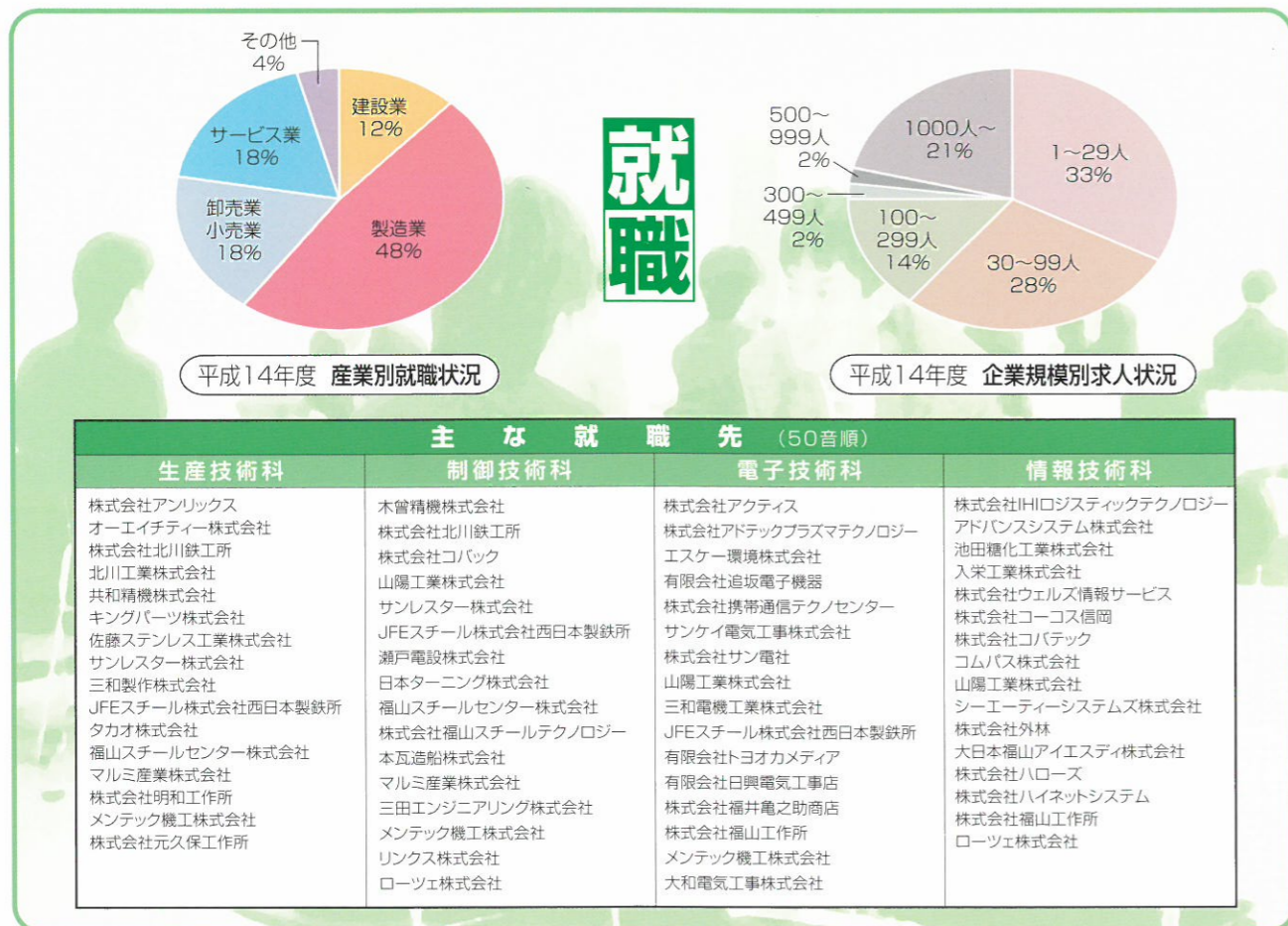
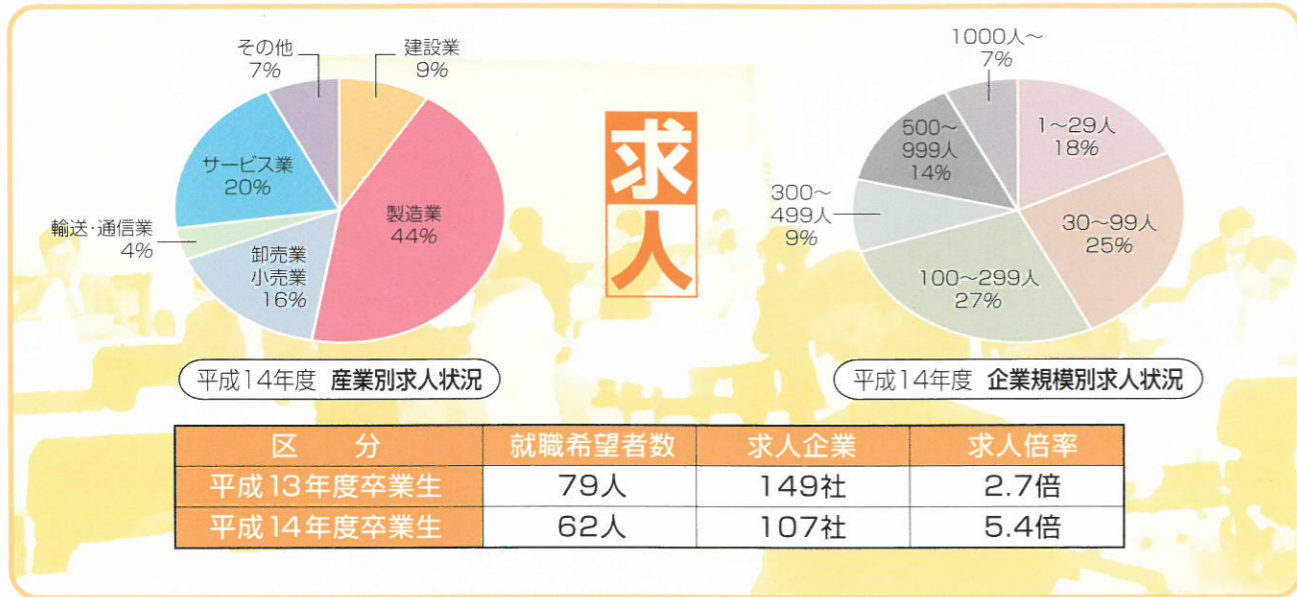
専門教科科目		区分
専門実験・実習科目	専門学科目	基礎学科
電気工学基礎実験 電子工学基礎実験 コンピュータ基礎実習 コンピュータ工学実習Ⅰ コンピュータ工学実習Ⅱ マイコン製作実習 通信工学実習実験 電子回路実習Ⅰ・Ⅱ 電子回路実習Ⅲ 電子回路実習Ⅳ デジタル電子回路実習Ⅰ パワーエレクトロニクス 半導体工学 センサ工学 電気機器 生産工学 安全衛生工学	電子工学Ⅰ・Ⅱ 電気回路Ⅰ・Ⅱ 電磁気学Ⅰ・Ⅱ 電気数学Ⅰ・Ⅱ 制御工学Ⅰ・Ⅱ 電気・電子計測Ⅰ・Ⅱ コンピュータ工学Ⅰ・Ⅱ マイコンシステム設計 通信工学Ⅰ・Ⅱ 電子回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ デジタル電子回路Ⅰ・Ⅱ パワーエレクトロニクス 半導体工学 センサ工学 電気機器 生産工学 安全衛生工学	

CIRCUMSTANCES OF POSITION

就職状況

本校では、学生の皆さんが自分の適性にあった職業の選択ができるように、就職ガイダンス、企業セミナー、適性検査、個別面談、面接指導等を実施し、ひとりひとりの学生に対してきめ細

かな指導を行っています。また、学務援助課に求人状況を閲覧できる学生相談室を設け、情報収集と資料管理に努め、学生と短期大学校が一体となって就職活動に取り組んでいます。



CURRICULUM

カリキュラム

本校での専門課程(高度職業訓練)に加え、より高度な産業界のリーダーを目指す学生は、応用課程をカリキュラムに持つ職業能力開発大学校応用課程(2年)へ選考試験を経て進むことができます。

専門課程・教育訓練プラン

専門課程とは、基礎的な技能・技術から専攻分野に必要な高度な技能・技術までを体系的に習得する2年間の訓練課程です。

専門課程では、産業界が求めている自らものづくりができる実践技術者(テクニシャン・エンジニア)として相応しい能力をマスターすることが可能となります。

応募資格
高等学校を卒業した方(卒業見込みの方を含む)又は実務経験その他によりこれと同等以上の学力を有すると認められる方

1年次
ものづくりに必要な基礎的な理論と基本的な技能・技術を一体的に習得する

2年次
ものづくりに必要な高度な理論と技能・技術を習得し、実践技術者としての素地を身に付ける

実践技術者
テクニシャン
エンジニア

生産等に対応できる技能・技術と適切な判断能力を有する将来の生産ラインのリーダー

さらにステップアップ

応用課程・教育訓練プラン

応用課程とは、高度な技能・技術や企画・開発能力などを習得する2年間の訓練課程です。

応用課程では、今までにない教育訓練のシステムにより、産業界で必要とされている生産現場のリーダーとして相応しい能力をマスターすることが可能となります。

応募資格
専門課程の高度職業訓練を修了した方(修了見込みの方を含む)又は実務経験その他によりこれと同等以上の技能及びこれに関する知識を有すると認められる方

1年次
専攻した技能・技術を深めるとともに、関連する技能・技術を習得し、それらを活用する能力を習得する

2年次
ワーキンググループ方式により、生産現場に密着した製品の企画開発から製作までの創造的・実践的なものづくり能力を習得する

生産技術
生産管理部門
のリーダー

新製品の開発、生産工程の構築等に対応できる将来の生産技術・生産管理部門のリーダー

INFORMATION

設置科	開設校	電話番号
●生産機械システム技術科	北海道職業能力開発大学校	☎0134-62-3553
●生産電子システム技術科	東北職業能力開発大学校	☎0228-22-2082
●生産情報システム技術科	関東職業能力開発大学校	☎0285-31-1711
●建築施工システム技術科	職業能力開発総合大学校東京校	☎042-341-3331
	北陸職業能力開発大学校	☎0765-24-5552
	東海職業能力開発大学校	☎0585-34-3601
	近畿職業能力開発大学校	☎0724-89-2112
	中国職業能力開発大学校	☎086-526-0321
	四国職業能力開発大学校	☎0877-24-6290
	九州職業能力開発大学校	☎093-963-0125
	沖縄職業能力開発大学校	☎098-934-6282

※詳細については、各職業能力開発短期大学校学務援助課、あるいは上記の大学校学務課までお問い合わせ下さい。

就職状況

カリキュラム

DREAMER

制御技術科
実践技術者を目指して



専門性をもっと深く追求し、技能・技術を向上させ、
これからの仕事に活かしたい。

私は、高校の電子科にいた頃からシーケンス制御の回路設計・製作に興味があり、高校の卒業研究では、シーケンス制御を用いたエレベータ模型を製作しました。その模型が思い通りに動いたときの感動は、一生忘れられません。そして、高校卒業後もシーケンス制御やパソコン制御を用いた回路設計・製作がしたいと思い、この短大に進学しました。ここでの授業は、高校までのものと違い、より専門的で難しいことが多くあり、授業についていけない心配でしたが、周りの友達や親切に教えてくれる先生方に相談することで少しずつ身に付きました。これからは、社会人としてもっと専門的な知識を学び、技能・技術の向上を常に意識し、頑張っていきたいです。

在校生紹介

伊野靖史

制御技術科 2年



指導員からのアドバイス

どんなに複雑な動作をしても、その仕組みはすべて単純な規則の積み重ねです。

制御技術科では、その単純な規則と、積み重ね方を学んでいきます。

より効率よく、パズルを解くつもりで積み重ねる方法を一緒に考えましょう。

機械システム系
指導員 永松 恭介

DREAMER

生産技術科
実践技術者を目指して



常に学びたいという気持ちを忘れずに

私は、高校の普通科を卒業後、この短大へ進学しました。家からの通学が困難なため、学生寮に入りました。初めは、寮生活に不安を抱いていましたが、今では良い仲間が囲まれ楽しい日々を過ごしています。先生方の熱意あるご指導のおかげで、念願の企業に早期に就職内定することが出来ました。より良い技術者になるために、機械加工に関連する幅広い知識や技術を習得し、残りの学生生活を有意義に過ごしたいと思っています。

在校生紹介

前本博昭

生産技術科 2年



指導員からのアドバイス

広い知識や技術を習得するためには、いろいろな視点に立って物事を考えることが大切です。少しでも疑問に思ったら、原因を追求してください。この積み重ねにより、自信や実力がつくと思います。信頼される技術者をめざして頑張りましょう。

機械システム系
指導員 野坂 和弘

DREAMER

情報技術科

生産管理部門のリーダーを目指して

ポリテク
カレッジ
福山

中国職業能力
開発大学校

[応用課程(生産情報システム技術科)]

[専門課程(情報技術科)]



少人数クラスのアットホームな雰囲気での学習できる

私は、他県の高校の普通科からポリテクカレッジに入学してきました。中学、高校とパソコンに全く触れていなかったため、入学してすぐは、どうしたらいいのかさっぱりわかりませんでした。しかし、実習を中心とする充実した授業のおかげで、今ではプログラミングに興味を持てるようになりました。クラスの人数が少ないためみんな仲がよく、自治会活動にも参加し、毎日楽しく学校に通っています。これからはもっと深く情報の知識を学ぶため応用課程に進学を考えています。

岡田尚子

情報技術科 2年



指導員からのアドバイス

IT(情報技術)を制すれば、時代の先端に行くことができます。その基礎となるコンピュータに関する知識と技能をここで身につけてください。必ず、充実した学生生活になると思います。夢は大きく、日本のビル・ゲイツです。

情報システム系
指導員 日浦 悦正

DREAMER

電子技術科

実践技術者を目指して

ポリテク
カレッジ
福山

中国職業能力
開発大学校

[応用課程(生産電子システム技術科)]

[専門課程(電子技術科)]



一人一人が自ら行う実験実習内容で力がつきます。自分で設計製作する技術力を高めるため応用課程に進みます。

私は、ものづくりが好きなので、福山短大に入りたく、キャンパス見学会に参加しました。見学会では、先生方の手作りの軌跡ロボットの実演を見て、自分もそういったロボットを作りたいと思い電子技術科に入学しました。私は、普通高校出身なので、初めて学ぶ専門科目や初めて扱う電子計測器が多い上、更にグループではなく一人一人が自ら行う実験実習も多く、ついていけないか不安でした。しかし、先生方の丁寧でわかりやすい説明と、納得のいくまで繰り返し実習を指導していただき、機器にも慣れ、自分で設計・製作する楽しさを学ぶことができました。また、入学時から先生方が繰り返し進路相談に応じてくださり、私は相談の結果、更に高度な技能・技術を習得するための応用課程に進むことにしました。

森本さゆり

電子技術科 2年



指導員からのアドバイス

当科では、自ら考え自ら行う実験実習に重点を置き、電子回路やプログラムの設計製作に十分慣れ、理解していただけるよう指導しています。当短大を希望する皆さん、当科で、自分で考え自分の手で行うものづくりの楽しさを実感し、就職に活かしてみませんか。

電子技術科
指導員 鍛冶原 克之

CONTENTS OF WORK 事業内容

ポリテクカレッジ福山では、能力開発セミナーをはじめとする下記の事業を行っており、地域に開かれた短期大学校としての役割を果たそうと日々努力を続けています。



短期大学校(専門課程)

産業界が必要とする実践技術者(テクニシャン・エンジニア)を育成するための少人数による教育訓練を実施しています。

- 生産技術科
- 電子技術科
- 制御技術科
- 情報技術科

事業主団体研究開発事業

産業界の技術動向、業界団体の抱える(1)職業の技術改良・改善及び新技術導入(2)自動化、省力化等先端技術の導入(3)製品開発等に係る技術的課題の調査・研究並びに技術的相談援助を行っています。

在職者訓練

【能力開発セミナー】

在職者の技能向上、能力開発などを目的に、技術革新や経済のソフト化などを地域経済社会の変化に対応したバラエティに富んだ内容で実施しています。比較的短期間(2日~8日程度)のセミナーを利用しやすい時間帯に開講しています。

離転職者訓練

離転職者の方々が、再就職するのに必要な基礎的技能・技術から地域のニーズに即し、応用を加味した技能・技術を習得する訓練です。

- 電子技術エキスパート科 訓練期間1ヶ月
- 生産システム科(機械コース・情報コース) 訓練期間6ヶ月
- メンテナンスサービス科 訓練期間6ヶ月
- ビジネスアプリケーション科 訓練期間3ヶ月

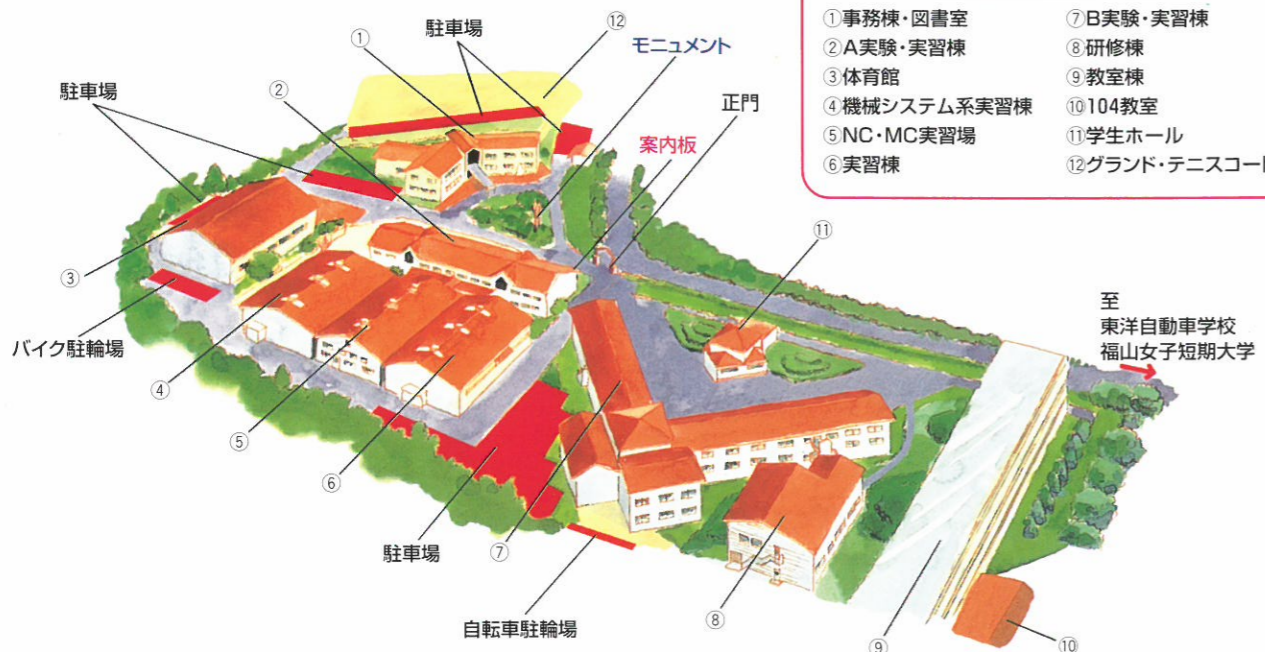
相談・援助

キャリア支援コーナーにおいて、キャリア形成についての相談を希望する労働者に対してキャリア・コンサルティングを実施し、今後のキャリア形成について、助言又は指導を行っています。それぞれの目的に応じた自己啓発プログラムの作成やニーズに適した職業能力開発施設、セミナー、公的助成制度の利用などを案内し、現有技術・技能の向上などに役立つ総合的な相談・援助を行っています。

施設開放

地域の事業主団体及び事業主等の皆様に対するサービスとして、当施設の開放を行っています。会議、研修、従業員の教育訓練、レクリエーション等の場としてご利用出来ます。

ポリテクカレッジ福山キャンパス案内図



CAMPUS LIFE キャンパスライフ



夢、情熱、仲間。
 いろいろあるから毎日楽しい。

何かを見つけたり、学んだりするのに、遠慮なんかいらない。



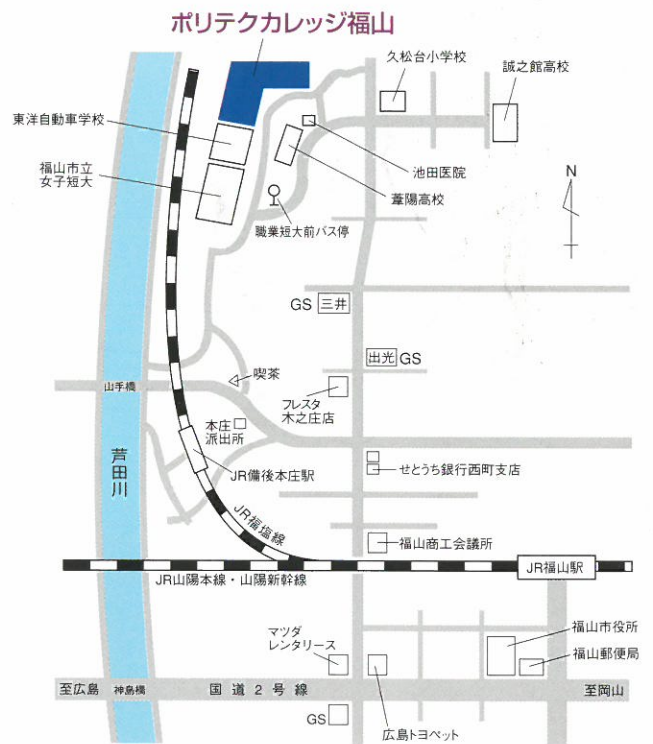
夢があるなら貪欲に行こう。情熱があるなら突っ走ってみよう。

大丈夫、仲間がいるから楽しくやれるよ。

キャンパスライフ

年間行事

- 3月 総合制作研究発表会 修了式
- 2月 一般入試
ポリテクビジョン(研究発表作品展示)
- 1月
- 12月
- 11月 推薦入試
企業見学会(産業教育振興会主催)
県技能フェアに出展
- 10月 学園祭
- 9月 第2回キャンパス見学会
- 8月
- 7月 第1回キャンパス見学会
- 6月 交通安全教育
- 5月 球技大会(学生自治会)
- 4月 入学式



■交通／JR (福塩線) 備後本庄駅より徒歩15分
 JR福山駅よりタクシー10分
 バス: JR福山駅前中国バス③番乗場
 (本庄循環線)にて職業短大校前下車(所要時間15分)・徒歩5分

NOKAIDAI
 中国職業能力開発大学校
 附属福山職業能力開発短期大学校
 (愛称: ポリテクカレッジ福山)

〒720-0074 福山市北本庄4-8-48
 TEL.084-923-6327 FAX.084-921-7038
<http://www.ehdo.go.jp/hiroshima/>